

向こう側のあの人

渡科由太

4月20日

部活を終えての帰宅中、発車間際の電車に乗ろうと走っていて転んでしまった。ラッシュ時の駅で鞆の中身をぶちまけてしまったのは痛かった。思わぬ恥をかいてしまったけど、まだまだ慣れない高校生活、時間には余裕を持って行動すべしという教訓だと思ふことにする。

そういえば、慌てて荷物を片付けたせいで危うく財布を忘れそうになった。すぐそばにいた他校の人が拾ってくれたからよかったものの、そのまま電車に乗っていたら改札から出るのも一苦労だったと思う。なにせあの財布には定期から学生証から、大事なものが色々と入っていたのだ。

その他の人も急いでいたらしく、すぐに反対方面のホームへと去ってしまった。とても親切な人だったので、お礼の一つも言えなかったのは心残りだ。

4月25日

学校帰りに駅に面した大通りで、以前財布を拾ってくれた人を見掛けた。と言っても、中央分離帯を挟んで向こうの歩道

歩いていたので、声をかけることもできなかったけど。この間のお礼を言いたかったのに、よほど急いでたのか駅に着いてすぐ見失ってしまった。

また機会を逃してしまっただけど、二度も駅付近で見掛けたんから、きつとまた会うこともあるだろう。

5月19日

今日も帰宅途中の大通りで、あの人を見掛けた。ただ今日も通りの向かい側で、しかもかなり離れていたもので、とても追い付けそうにはなかったけど。

そもそも財布を拾ってもらってからひと月も経っているんだ。今更お礼を告げたところで相手が覚えているとも限らないし、きつと迷惑になるだけだろう。残念ではあるけど、結果的に声をかけなくて正解だったかもしれない。

それにしても数度顔を見掛けただけだというのに、あれだけ距離があつてよくあの人だと気付けたものだと思う。

まああの人は確かに端正な顔付きをしているので、目立っているとさえ目立っているのだが、ともあれ我ながらの目敏さに感心するやら呆れるやらである。

6月8日

本日、一学期中間テストの結果が返ってきた。

高校生活最初のテストとはいえ、さすがに甘く見詰もり過ぎていたかもしれない。部活が楽しいのもあって、日々の勉強が疎かになっていたようだ。このままでは両親に部活を控えるよう言われてしまうかもしれない。学期末は頑張らねば。

そういえば、今日も帰り道にあの人を見掛けた。今日は以前とは違い、同じ学校の友人らしき人と談笑しているようだった。やはりあの人も、定期試験の結果について話をしているのだろうか。

最近知ったことだけど、あの人の制服はうちの学校と山向この高校のものらしい。うちよりも随分と頭のいい学校なので、きつとあの人も勉強が得意なのだろう。一度話した限りだけど、柔和そうな物腰は確かに知的そうな印象だった。できることから、もう一度お話をしてみたい。

7月19日

一学期の期末テストが返ってきた。成績不良者は夏休みの初っ端に補習があるらしいが、なんとか無事切り抜けることができた。これで気兼ねなく夏休みを迎えることができる。部での一年生の活動も少しずつ本格化してきたので、そちらも休

中頑張ろう。

部活と言えば、あの人は何かのクラブに入っているのだろうか。こちらの部活帰りに見掛けることが多いので、あちらの授業後も何かしら活動しているとは思っただけだ。ただ向こうはうちと違って進学校なので、授業がこちらよりも長引くことが多いのかもしれない。

8月25日

夏休みも残り僅かとなったけど、今年も例年のごとく宿題を溜めてしまった。なので今日は部活も休みだったこともあり、宿題を片付けるべく友達と駅前図書館に行ってきた。おかげであらかたの宿題を消化することができた。

それと、今日は少しだけいいことがあった。図書館を出て駅に向かっていると、またあの人を見掛けたのだ。いつもは駅に向かうあの人の後ろ姿を追ってばかりだったが、今日は向こうからやってくる姿を見ることができた。やはり通りを挟んでいたけど、それでもあの人の私服姿を見ることができたのはラッキーだ。どちらかと言えば地味な服装ではあったけど、知的なあの人には似合っていた。

それと今日のあの人は、なんとギターケースのようなものをさげていた。バンドでもやっているのだろうか。もっと大人し

めの趣味か、あるいは陸上のような部活を勝手に想像してたので、少々意外だった。あの人が演奏する姿を、できれば一度見たいな。

9月16日

今日はいつもより部活が長引いてしまったので、帰りが少し遅くなってしまった。夏も過ぎて日が暮れるのも早くなってしまったので、あまり遅くならないようにしなければ。

そういえば、今日は少し不思議なことがあった。今日も帰りがけにあの人を見掛けたのだが、あの方は制服ではなくこの間のように普段着で、しかも駅からこちらへと向かってきていたのだ。それも、以前と同じようにギターケースをかかえていた。今日は普通に平日なので、あの方の学校もうちと同じく授業があったはずなのに、どうしてなのだろうか。

授業をサボってバンド関連の活動でもしていた？ 真面目そうなおの人にはにつかわしくないけど、そもそもギターを演奏するあの人というのも十分意外な姿なんだ。学校をサボるくらい普通なのかもしれないと、ちよつと親近感を覚えてしまった。

10月14日

二期期中間テストが始まった。一学期のようにならないよう頑張らないと。

それと最近うちや近隣の学校で、生徒が行方不明になるという事例が多いらしく、犯罪などに巻き込まれないよう行動するよう先生からの注意があった。隣のクラスでも、しばらく学校に来ていない子がいるらしいと、友達が言っていた。その子もこの連続失踪事件と、何か関係があるのだろうか。

ところで失踪者はうちの学校だけではないらしいけど、あの方は大丈夫だろうか。実際は知り合いで知らない人のことを心配するというのも変な話だけど、無性に気になってしまう。またあの方の元気な姿を見られるといいのだけど。

11月6日

久しぶりに、あの方の姿を見掛けた。ただ今日のあの方は、いつもの柔和そうな顔ではなく、どこか険しい様子で駅に向かっていた。どうしたのかと思わずあとを追ってみたけれど、帰宅する人波のせいで見失ってしまった。

何故だか、とても胸騒ぎがする。うちの学校でも、もう十人ほどが姿を消しているらしいのだ。あの方も、何か変なことに巻き込まれてはいないだろうか。

11月18日

友達が、姿を消した。ここ二、三日学校に来ていなかったの
で不思議に思っていたのだけれど、どうやら自宅にも帰ってい
ないらしい。何か心当たりはないかと先生から聞かれたけど、
こちらとしても突然のことなのだから、話せることなど何もな
い。

同じ学校の人たちが姿を消していると言われても、どこか自
分からは遠い世界の出来事のように思っていたのに。こうして
身近な人が巻き込まれてみると、途端にすぐそばまで危険が
迫っているようで、恐い。

友達は大丈夫だろうか。早く、無事に見付かるといいのだけ
ど。

11月26日

わからない。どういうことなのだろう。自分の目で見たもの
が信じられない。混乱していて文章がまとまらない。とにかく
今日見たものをそのまま書いてみることにする。

最近の事件を受けて部活が中止になり、今日はいつもより早
めに帰ることになった。それで駅に向かってみると、大通りの
向こうにあの人を見付けた。今日も誰かと一緒にいて、ずいぶ
ん久し振りだなと思って見ていると、一緒にいたのが行方不明

になった友人だったのだ。最初はまず、もう十日も行方知らず
だった友人が突然姿を見せたことに驚いた。それから、なぜ接
点なんてないはずのあの二人が一緒にいるのかと不審に思った。
駅に向かう二人を慌てて追い掛けたけど、駅についたところで
見失ってしまった。しばらく駅構内やホームで二人の姿を探し
てみたけど、見付けることができなかった。そして訳がわから
ないまま、うちに帰ってきたところだ。

自分で見たものが、今でも信じられない。あれは、友人を心
配するあまり見てしまった白昼夢だったのでは、と今では思っ
てしまうくらいだ。なぜ、あの人が行方不明のはずの友人と一
緒に？ あの子は、ここ最近の事件と何か関係があるというの
だろうか？

12月4日

駅であの人と友達を見掛けてから一週間、学校をズル休みし
ていつもの駅周辺を探していたけど、結局あの人たちを見付け
ることはできなかった。

今日まで誰にも相談できずにいたけど、このまま一人で行動
し続けるのがよいとも思えなかったので、ひとまず信頼できる
部活の先輩に、先ほど事情を話してきた。本来なら警察などに
相談するべきなんだろうけど、あの時見たのが現実だったとい

う確信がどうしても持てなかったのだ。それに、あの人が失踪事件に関係しているとどうしても思えなかったので、警察に話すのが躊躇われた。

それにその先輩は、恋人があの人と同じ高校に通っているらしく、その人を通じてあの人について教えてもらえるかもしれない。先週の出来事の判断をどうするかは、それを聞いてからにしたかった。

12月10日

信じられない。本当にそんなことがあるのだろうか？

あの人について相談した先輩から、今日話を聞いてきた。それで先輩の恋人が言うには、あの人らしき生徒はいないというのだ。もちろんあの人については、容姿以外は名前も学年も知らないで、調べてもらう方法は限られているけど、それでもあの人について何の情報も得られないとは信じられなかった。大人しそうな風貌ではあるけど、あれほど端正な容姿の人なんだ。もしあの人がうちの生徒なら、学年内で話題にならないはずがなかった。

先輩の恋人さんの周囲でたまたま話題にならなかっただけでも考えられるけど、どうしてもそれだけとは思えない。あの人は、あの学校の生徒ではなかったのだろうか？

12月19日

信じられないことが起きた。友達と会ったのだ。学校からの帰り道に、あの駅前の大通りで。

もうずっと、友達の姿も、そしてあの人のことも見掛けないまま二期の最終日になり、このまま訳がわからないまま何もかも風化してしまうのかと思っていたのに、突然友達が姿を現したのだ。最初友達は、大通りの向こう側を歩いていたらうだけど、向こうが先にこちらを見付けたらしく、こちら側へとやってきた。それも車が往来する車道を突っ切って、中央分離帯をまたいでだった。

こちらとしては色々聞きたいこともあったけど、あまり時間がないうらしく、用件だけを手短かに告げられた。12月25日の深夜零時に、この駅前に来てほしい。そしてそのことは、誰にも話さないでほしい、と。

わからなかった、何がどうなってるのか。友達は今までどこで何をしていたのか。あの人とはどんな関わりがあるのか。他の行方不明になった人たちはどうしたのか。何の説明もないまま、ただ呼び出された。

友達は、何も話せないことを詫びていた。何も話せないまま、25日まででどうするか決めてほしいと言ってきた。その時に、

全ての疑問に答えると言って、追い掛ける間もないうちに姿を消してしまった。

はつきり言って、怖い。どんなこと待ち構えているのか、そして自分はどうなってしまうのか、さっぱりわからないのだ。一体、どうすればいいのだろうか。

12月24日

もうじき、呼び出された駅に向かう終電の時間だ。これから、行つてこようと思う。

今日まですごく悩んで、何度も誰かに相談しようとも思つたけれどそれで、全てが自分の手の中から滑り落ちていってしまった。結局ただ一人悩み続けた。

逆に言うと、ここで見逃してしまえば、きっとこの訳のわからない状況から自分は無縁になれるのだという、妙な確信もあった。だから、自分の意思でそんなメチャクチャな状況に飛び込むための踏ん切りが、ずっとつかなかつた。

だけど、このまま何もわからないままであることが何よりも怖いような気がした。だからこれから、あの駅へと行つてこようと思う。願わくば、またこの続きを記すことができますように。

いつてきます。

第三回突貫企画工事号

2014年10月27日発行

編集人 渡科由太

印刷所 広島大学文団BOX